

## 第2段階：情報を分析する力と分析した情報を総合的にとらえ支援策を考え判断する力を養う支援シート4

支援シート1～3の内容を生かして、より良い支援策を考えていきましょう。

第1回支援会議の時に、共通理解を図るために記入しておくとな後々も使える対象児への支援を考える際の資源探しをしやすい  
記入の際に、付箋紙を使用すると、付け足したり、移動したりすること等が簡単

右のような支援シート4は支援シート1～3の情報を基に、支援会議で話し合いながら作成します。(慣れてきたら支援シート1～3を使用しないで、情報収集したものを直接記入することも可能になります。)

どのような方法で作成していったのかは、次ページ以降を参考にしてください。



記入例

支援シート4 対象や対象の周りの情報収集を行った後、支援内容を検討し、支援の効果や必要度・支援の難易度を考えながら決めよう			
対象 + や - の要因	+ の要因	- の要因	
対象の周り + や - の要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語が得意</li> <li>・運動が好き</li> <li>・仲の良い友達がいる</li> <li>・お手伝いを進んでする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数が苦手</li> <li>・友達に気を遣う</li> <li>・まじめで慎重</li> <li>・腹痛や頭痛などの理由で遅刻と欠席が始まっている</li> <li>・担任との関係が薄い</li> </ul>	
+ の要因	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">どの支援から行おうか決めるめやす</div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <span>すぐできる・しやすい</span> <span>支援の難易度(すぐできるか、支援しやすいか)</span> <span>すぐできない・難しい</span> </div>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲の良い友達が、学校と対象をつなげている</li> <li>・担任と母親は話ができる</li> <li>・腹痛や頭痛で保健室に行くことがたびたびある(養護教諭が支援者となる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母嫌と担任との信頼関係を深め、対象への支援を行う</li> <li>・できることを誉め、自信をもたせ、学校での存在価値を高める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理的な負担を減らす</li> <li>・友達との関係づくりを学級活動などを通して行う</li> </ul>
- の要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両親の期待が本人には負担になっている</li> <li>・父親との関係が希薄</li> <li>・担任と両親とのつながりがやや希薄</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子関係の改善が図れるように支援を行う</li> </ul>

支援シート4の記入方法1：情報の分析をしましょう

支援シート1 記入例

見立て項目表	子どもの現状をよく理解しよう
対 象	小学(5)年 性別(女)氏名( )
問 題(現状理解)	遅刻か欠席が週に1~2日
問題の経過(現状理解を助けるもの)	5年生7月頃から体調不良を訴え始め、9月から頭痛や腹痛を理由に、遅刻や欠席が目立ち始めた。
成育歴	兄が知的障害で「なかよし」に通っているため、本人に対する期待が大きかった。
家 族	父(45歳) 母(43歳) 兄(中2) 本人(小5)の4人家族
その他(対象と対象の周りとのつながりを図で考えよう)	

つながりが強い＝  
つながりが普通＝  
つながりが弱い＝  
よくわからない＝？

対象の実態をより把握しやすくするために支援シート1～3の情報を支援シート4の～に、分類して書いていきます。  
各要因が付箋に書いてあれば、それを貼っていきます。付箋に書いておくと場所の移動も楽です。

支援シート2 記入例

子ども理解表	その子のことをよく理解しどんな支援ができるか考えよう
子ども理解項目	具体的内容 (得意、不得意、興味、関心、留意点など)
学 習	国語が得意、算数は苦手、運動が好き
生 活	まじめで慎重、お手伝いとか進んで良くする 腹痛や頭痛を訴え保健室にたびたびいく
友 人	仲の良い友達がいる、友達に気を遣うタイプ

図3 支援シート3 記入例

段階チェック表	どんな支援がその子に必要なか考えるめやすにしよう		
現在の状況に近いものに	具体的な様子や状態	支援のポイント(支援会議の際に具体策を考えよう)	
登校渋り	学校生活や家庭生活で不登校を起こし、日常生活が苦しくなり始めている。遅刻や欠席などの形には現れていない。	友達がいない一人であることが多い元気がなく表情が暗い保健室に通ったりするいつもと何かが違うところなどが感じられる等	子どもの孤立感を緩和させるようにする。何でも話せる学級の雰囲気づくりや個々の人間関係づくりをする。
初期	遅刻の始まり不安と混乱がある。	腹痛、頭痛、発熱などで休むことがある。食欲や睡眠時間など生活の乱れがある物や人にあたることで感情や行動が不安定になる成績が低下している学校の話題が出るといやな表情をする	休息と安静を心がけ、安定させる。保護者との信頼関係をつくり、情報交換をしながら、家庭でできる協力を求める。
不登校	このようにをつけてみると見えてくるものがある	支援策を考える際にこんな点に配慮	

支援シート4 対象や対象の周りの情報収集を行った後、支援内容を検討し、支援の効果や必要度・支援の難易度を考えながら決めよう

対象 + や - の要因	+ の要因	- の要因
対象の周り + や - の要因		
+ の要因	どの支援から行うか決めるめやす	すぐできる・しやすい 支援の難易度(すぐできるか、支援しやすいか) すぐできない・難しい
- の要因	効果大 すぐ必要 支援の効果・必要度 時間的にすぐ必要か 質的にすしなげばならないか すぐ必要でない 効果小	

1 支援シート1～3の情報をまず、対象と対象の周りの要因(資源)に分類します。

2 対象や対象の周りの要因に分類したら、次に下記の～のようにさらに細かく分類します。

対象自身の要因で、対象の問題に+に働いている、または働くと考えられるもの(得意、好きなど)  
対象自身の要因で、対象の問題に-に働いている、または働くと考えられるもの(不得意、嫌いなど)  
対象の周りの要因で、対象の問題に+に働いている、または働くと考えられるもの(問題解決を助ける)  
対象の周りの要因で、対象の問題に-に働いている、または働くと考えられるもの(問題解決を阻害する)

支援シート4の記入方法2：支援シート1～3の情報を、下記の表を参考に、対象や対象の周りの4カ所の要因に分類しましょう。

支援シート4


<p>対象 +や-の要因</p> <p>対象の周り</p> <p>+や-の要因</p>	<p>+の要因</p> <p>対象が得意なもの、好きなもの、興味があるもの等、 +の資源となるもの</p> <p>記入例：国語が得意、運動が好き 仲の良い友達がいる、お手伝いを進んでする</p>	<p>-の要因</p> <p>対象の不得意なもの、嫌いなもの等、-の資源となるもの</p> <p>記入例：算数が苦手 友達に気を遣う、まじめで慎重 腹痛や頭痛などの理由で遅刻と欠席が始まっている 担任との関係が薄い</p>
<p>+の要因</p> <p>対象の周りに注目し、支援者になれそうな人や施設等、対象にとって+の資源となりそうなものを記入（付箋を貼る）</p> <p>記入例：仲の良い友達が、学校と対象をつなげている 担任と母親は話ができる 腹痛や頭痛で保健室に行くことがたびたびある（養護教諭が支援者となる）</p> <hr/> <p>-の要因</p> <p>対象の周りに注目し、対象の現在の問題解決を難しくしているものや問題解決の阻害要因等、-の資源になりそうなものを記入（付箋を貼る）</p> <p>記入例：両親の期待が本人には負担になっている 父親との関係が希薄 担任と両親とのつながりがやや希薄</p>	<div data-bbox="622 499 784 619" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>どの支援から行うか決める めやす</p> </div> <div data-bbox="817 531 1968 563" style="text-align: center;"> <p>すぐできる・しやすい ← 支援の難易度（すぐできるか、支援しやすいか） → すぐできない・難しい</p> </div> <div data-bbox="622 643 784 1394" style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> <p>効果大 すぐ必要</p> <p>↑</p> <p>支援の効果・必要度</p> <p>↓</p> <p>質的にすぐしなければならぬか</p> <p>時間的にすぐ必要か</p> <p>↓</p> <p>すぐ必要でない 効果小</p> </div> <div data-bbox="929 699 1783 1337" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>対象や対象の周りの要因について、どちらに分類するか難しいものは、その時点で一番あてはまる所に記入したり、見方を変えてあてはまる所すべてに記入したりしておく、様々な視点から実態把握ができる。</p> <p>例：対象にとって、「仲の良い友達がいる」ということは、見方を変えると「仲の良い友達が学校と対象をつなげている」とも考えられるので、対象と対象の周り両方に記入した。</p> <p>+、-の判断も、その時の状況で、対象の問題を深くしていたり、問題解決を困難にしていたりすると考えられるものは-要因と考え、問題解決に向けて+に働くと考えられるようになったら+の要因と考えて支援策を考えていくと良い。つまり、場所は対象の状態や変容に応じて移動可能（+ -の捉え方が変わる）である。</p> <p>例：「まじめで慎重」という対象の性格が、この時点では、親の期待に真面目に応えようとして、神経質になっていることが、腹痛や頭痛という身体症状に影響していると考えて、-の要因と考えた。この状態が良くなれば、支援策を考える際に、+面でもとらえて資源としても生かせる</p> </div> </div>	

支援シート4の記入方法3：各要因を対象や対象の周りの4カ所に分類したら、次は下記の表を参考に全体的な支援策を考えましょう。

支援シート4

対象	+ や - の要因	
対象の周り	+ の要因 記入例：国語が得意 運動が好き 仲の良い友達がいる お手伝いを進んでする	- の要因 記入例：算数が苦手 友達に気を遣う、まじめで慎重 腹痛や頭痛などの理由で遅刻と欠席が始まっている 担任との関係が薄い
+ や - の要因		
+ の要因	どの支援から行うか決めるめやす 効果大 すぐ必要 支援の効果 必要度 質的にすぐしなければならないか 時間的にすぐ必要か すぐ必要でない 効果小	支援の難易度（すぐできるか、支援しやすいか）すぐできない・難しい すぐできる・しやすい 支援策の実行が容易で効果や必要性がありそうなものほど左上に行く 支援策の実行は困難だが効果や必要性がありそうなものほど右上に行く 対象の+の要因、-の要因、対象の周りの+の要因、-の要因の4カ所を見ながら、問題が解決するために必要と思われる全体的（長期的）支援策を考え、対象や保護者、学級などに働きかけていく。支援策の効果や実行しやすさなどは、状態変化に応じて変化するので、支援会議の際に検討し直し位置を移動していくと、具体的な支援策を考える際の参考になって便利である。 例：対象の周りの要因から母親と担任とのつながりはやや希薄であるが話はできる関係であることが分かるので、「母嫌と担任との信頼関係を深め、対象への支援を行う」という支援策が考えられる。この支援策は効果もあり、実行しやすいと判断し左上に貼る。
	記入例：仲の良い友達が、学校と対象をつなげている 担任と母親は話ができる 腹痛や頭痛で保健室に行くことがたびたびある（養護教諭が支援者となれる）	支援策の実行が容易だが効果や必要性がなさそうなものほど左下に行く 支援策の実行が困難で効果や必要性が少なそうなものほど右下に行く
- の要因	記入例：両親の期待が本人には負担になっている 父親との関係が希薄 担任と両親とのつながりがやや希薄	

支援シート4の記入方法4：下記の表のような全体的な支援策が決まったら、効果や実行しやすさから具体的な支援策に移せるようにしましょう。  
支援シート4

<div>対象 + や - の要因</div> <div>対象の周り</div> <div>+ や - の要因</div>	<div>+ の要因</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語が得意</li> <li>・運動が好き</li> <li>・仲の良い友達がいる</li> <li>・お手伝いを進んでする。</li> </ul>	<div>- の要因</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数が苦手</li> <li>・友達に気を遣う、まじめで慎重</li> <li>・腹痛や頭痛などの理由で遅刻と欠席が始まっている</li> <li>・担任との関係が薄い</li> </ul>
<div>+ の要因</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲の良い友達が、学校と対象をつなげている</li> <li>・担任と母親は話ができる</li> <li>・腹痛や頭痛で保健室に行くことがたびたびある (養護教諭が支援者となれる)</li> </ul> <hr/> <div>- の要因</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両親の期待が本人には負担になっている</li> <li>・父親との関係が希薄</li> <li>・担任と両親とのつながりが、やや希薄</li> </ul>	<div>どの支援から行うか決めるめやす</div> <div>効果大 すぐ必要</div> <div>支援の効果・必要度</div> <div>時間的にすぐ必要か</div> <div>質的にすぐしなければならぬか</div> <div>すぐ必要でない 効果小</div>	<div>すぐできる・しやすい 支援の難易度(すぐできるか、支援しやすいか) すぐできない・難しい</div> <div>1 母親と担任との信頼関係を深め、対象への支援を行う</div> <div>2 心理的な負担を減らす</div> <div>3 できることを誉め、自信をもたせ、学校での存在価値を高める</div> <div>4 友達との関係づくりを学級活動などを通して行う</div> <div>5 親子関係の改善が図れるように支援を行う</div> <div>今は担任と保護者との関係が薄く、親子関係の話まではできにくい。又、対象にとっては、心理的な負担を減らしたり、友達とのつながりや学校での存在感を高める支援を重点にしていける状態であると考えられた。このため、1～4の支援でできるものから始め、保護者との信頼関係が深まったり、対象の心理的な負担などが減少したり学校での居心地のよさが増したりしたら、5の位置が左上に移動していくと考えられる。左上にこの支援策が移動し始めたら、5の支援策を行っていくと効率化が図られる。</div> 

支援シート 4 対象や対象の周りの情報収集を行った後、支援内容を検討し、支援の効果や必要度・支援の難易度を考えながら決めよう				
<div>対象</div> <div>対象の周り</div> <div>+ や - の要因</div>		+ の要因		- の要因
<div>+ の要因</div> <div>- の要因</div>		<div>どの支援から行つていくか決める</div> <div>すぐできる・しやすい 支援の難易度（すぐできるか、支援しやすいか）</div> <div>すぐできない・難しい</div>		
		<div>効果大 すぐ必要</div> <div>支援の効果・必要度</div> <div>時間的にすぐ必要か</div> <div>質的にすぐしなければならないか</div> <div>すぐ必要でない 効果小</div>		